

（午後2時1分 再開）

○議長（中西峰雄君）休憩前に引き続き会議を開きます。

日程に従い、一般質問を行います。

順番19、6番 清水君。

〔6番（清水信弘君）登壇〕

○6番（清水信弘君）一般質問をいたします。

あまりの年月の過ぎ行く速さは、中村草田男の「降る雪や明治は遠くなりけり」を思い出させております。恐らくこの俳人も、終わった明治に、あれから幾度、降る雪に感じたものがあつたであろうかという時の流れの速さの感慨を詠んだものと考えますが、ふと、果たしてこれが明治終えん何年後に詠んだものかと調べました。私における結果は11年後というに至りました。

昭和が終わり、平成も22年が暮れようとしています。草田男の遠き明治よりちょうど2倍、私の昭和が遠ざかっていました。来年3月、平成元年生まれの大学生が卒業します。

地方の政治にかかわる者にとって、早い早い一区切りの4年が過ぎ去ろうとしています。迎えたくない、めでたくもない新年をできるだけめでたく迎えましょうか。

これより本論であります。

金剛三市回遊スタンプラリーについてであります。

全国でも珍しいとされる和歌山県、大阪府、奈良県が境を接する地点にある、いわゆる金剛三市、すなわち橋本市、河内長野市、五條市の広域事業の一つとして、今年、平安遷都1300年を祭する金剛三市回遊スタンプラリーが開催され、11月30日、応募が締め切られました。

こういう試みが催されていることを全く知らない三市の住民がとても多いのに驚きました。実は私も忘れており、食事に訪れた紀伊見荘でパンフレットを目にし、スタンプを集めて商品を当てようとラリーしました。新しい発見もあり、スタンプポイントの橋本駅前の観光案内所では事務員さんと楽しい会話もできました。あとはスポンサーから提供される商品が当たることを待つだけです。ユニークな地理条件を生かしたこの試みをもっと大きな試みにしてはどうかと提案いたします。

自市のスタンプポイント以外はまだまだ名前すら知らないところが多く、それらの地を金剛三市の多くの人、それ以外の地の人にも訪れてもらうことで地域おこしにも多々貢献するのではと思います。

次、市の道路管理についてであります。

道路がへこんでおり、水がたまり、車が通るたびに波が起こり、居宅へ浸入するなどの事象がありました。その他の不具合においても、市役所へ連絡すると、区長を通してくださいと言われることが多く、旧高野口町時代と比べ役所との隔たりが大きく、戸惑いを感じる市民が少なくありません。

また、区長がまるで市役所の下請けのように位置付けられているように見えなくもありません。区長の仕事としても、書類をそろえ、状況を記し、印鑑をつけて、それを役所に届けるなど、近くの役所ならいざ知らずということもあると思われます。

道路管理においては、問題があれば道路管理者、つまり市役所が責任をもって対処しなければならず、区長を通してとかいう次元の問題ではないと思います。道路の陥没、路肩

の欠落など、管理上の瑕疵に相当する場合は速やかに管理者において補修を行う責任があると思われまます。さらに、法的にこうした瑕疵をいち早く見つけるよう、日常の道路管理パトロールもしなければならぬとされているのではないのでしょうか。

管理者、すなわち市当局にお伺いしますが、このような管理はなされておられますか。また、提案として、通報者がだれでも即現場に向かい、状況を把握、確認、対処方法を通報者に示されてはいかがでしょうか。

私個人的には、かなりそういった状況を当局は現出しているとは感じています。しかし、一般市民にその感覚がないというのは何としても問題で、当局が議員と市民とでは対処に差があると感じさせているのではと憂慮いたします。

以上、1回目を終わります。

○議長（中西峰雄君） 6番 清水君の一般質問に対する答弁を求めます。

企画部長。

〔企画部長（吉田長司君）登壇〕

○企画部長（吉田長司君） 金剛三市回遊スタンプラリーのご質問についてお答えいたします。

本スタンプラリーは、河内長野市、橋本市、五條市で組織する広域連携協議会において平成18年度よりスタートさせた事業であります。毎年、市民をはじめ、県内外からも多くの方々が三市のスタンプポイントとなっている各名所、観光施設などを訪れ、小さな子どもからお年寄りまで大変ご好評をいただいています。

また、本スタンプラリーは、本年度で5回目を迎え、よりたくさんの方々にスタンプラリーに参加していただくため、現在、広域連携協議会事務局の五條市のご協力をいただき、平城遷都1300年祭とのコラボレーション事業として「河内長野・橋本・五條金剛三市広域

事業実行委員会」を立ち上げ、社団法人平城遷都1300年記念事業協会、各市観光協会、商工会議所、商工会、JR西日本、南海電気鉄道など関係機関と連携を図り、例年以上に三市の交流事業を活発に実施してまいりました。

本年9月1日、本市はJR・南海電鉄橋本駅、河内長野市は南海電鉄河内長野駅、五條市はJR五條駅におきまして、平城遷都1300年祭のマスコットキャラクターの「せんたくん」を招き、スタンプラリー開催期間の初日としてパンフレット配布啓発活動を実施し、夏の猛暑にもかかわらず、たくさんの方々に足をとめていただき、チラシを受け取っていただくことができました。

現在、事務局の五條市において応募はがきの集計作業を行っており、その後は宿泊券や三市自慢の特産品が当たる抽せんを行い、当選者には、随時商品の発送を行っていく予定です。

今後も引き続き、河内長野市、橋本市、五條市の三市による活発な交流事業が行われ、地域振興につなげていくことができるよう、三市広域連携協議会に対してさまざまな提案を積極的に行ってまいりたいと考えておりますので、ご理解のほど、よろしく願いいたします。

○議長（中西峰雄君） 建設部長。

〔建設部長（松浦広之君）登壇〕

○建設部長（松浦広之君） 道路管理についてでございますが、各地区から要望いただいた箇所を現地調査し、修繕や改良箇所等を決定した上で施工していますが、毎年数多くの修繕・改修要望が提出されており、現在の財政事情ではその要望すべてに対応することは不可能です。

そこで、施工箇所等を決定するに際し、各地区の諸事情等を含め、施工箇所の優先順位等を考える必要があると考えますので、地元

区長さんと相談させていただきながら進めさせていただいております。

道路陥没等、緊急を要する内容の情報をいただいた場合は、即現地に出向きまして、道路管理者としての担当課の判断で職員直営作業もしくは緊急修繕対応を行っているところです。

もちろん定期的な道路パトロール点検も可能な限り実施しており、日常業務の中でも点検意識をもって行動していますが、年々管理施設も増加する中で、すべてにまで行き届いていないのが現状です。

また、市民生活にかかわる危険箇所等の情報提供に関して、郵政事業株式会社橋本支店及び郵便局株式会社橋本郵便局と本市が覚書を締結しまして、市民生活ポストネット事業を実施しており、郵便業務に支障のない範囲で危険箇所等の情報提供をいただいています。

通報者からの情報が的確に把握できるように、状況の把握、確認、対処の各方法を日頃から周知しておいてはとのご提案をいただいておりますが、道路管理者の立場といたしましては、的確な情報は危機管理上重要であると考えますので、前向きに検討したいと考えます。

今後とも、市民の皆さんからの情報提供もいただきながら、通行の安全確保に努めてまいりますと考えるので、ご理解のほど、よろしく願いいたします。

○議長（中西峰雄君）6番 清水君、再質問ありますか。

6番 清水君。

○6番（清水信弘君）2番、再質問ありません。1番、幾つか再質問させていただきたいと思います。

今、私も何げなく言ってたんですけれども、部長のほうからも答弁でさらっと言われてましたけれども、金剛三市というのは、なかなか

いい名前だと思うんですよ。これ、だれがいつ名付けたのか。私、全然知らなかったんですけども、答弁願えるものだったら、ちょっといっぺん願いたいのと、それと、このような三県にまたがって同じような地理条件を持つところというのは全国にあるんでしょうか。ちょっとお教え願えたらと思うんですが。

○議長（中西峰雄君）企画経営室長。

○企画経営室長（野上義己君）まずは、清水議員に今回のスタンプラリーにご参加いただきまして、ありがとうございました。

おただしの件ですが、金剛三市回遊スタンプラリーの命名でございますが、実はこの三市の協議会におきましては、約30年前、三市協というのができておりまして、その当時の名称が金剛・葛城・岩湧山系開発都市懇談会という名前で、ここに金剛という名前が出てきております。その後、平成12年の5月に現在の名称、三市の広域連携協議会という名前に変わってございます。

命名というのは、昨年の10月に金剛三市の平城遷都1300年祭の記念事業を実行するにあたって実行委員会を立ち上げてございます。その中で三市の幹事会のほうでこの命名を提案させていただきまして、実行委員会のほうで採択されてこの正式名称となつてございます。

それと、河内長野市、五條市、橋本市、そういったところの三市がまたがっているようなところが珍しいのかなというようなことをおただしでございますけれども、私のほう、ネットでちょっと検索させてもらうところによりますと、いくらかの市がございまして。かなり多いんですわ。ただ、こういったところで協議会を結んでいるとか、設置しておるところは数は少ないのかなというふうに思います。

以上でございます。

○議長（中西峰雄君）6番 清水君。

○6番（清水信弘君）今回の応募用紙は何枚ぐらい刷られて、何箇所に設置したのかと、商品の提供はどういう形でなされているのかをお教え願えますか。

○議長（中西峰雄君）企画経営室長。

○企画経営室長（野上義己君）今回の応募用紙は、全体で3万枚を印刷してございます。三市にそれぞれ1万枚ずつ割り振りをされておりまして、何箇所に設置したかというおただしでございますけれども、設置された場所がわかるものと、例えば南海電鉄の営業推進室のほうへ一括して2,000枚を送付させていただいたと、あと、南海さんが主要な駅へ何箇所に設置してもらったところまではちょっと把握できてませんが、橋本市で17箇所設置、あと五つの機関へ送付しております。例えば南海さんですとか、JRさんですとか、商工会議所、そういったあたりの機関へ送付をさせてもらっておりまして、橋本市で22箇所のほうへ設置しておると。五條市で15箇所、五つの機関へ送付されております。それと、河内長野市で13箇所、二つの機関へ送付されております。

それと、もう一点。商品の提供はどういう形でなされているかというおただしでございますけれども、本年度は平城遷都1300年祭とのコラボレーション事業ということで、平城遷都1300年祭「河内長野・橋本・五條金剛三市広域事業実行委員会」を立ち上げました中での実行委員会の予算でもって購入してございます。例年は河内長野市、橋本市、五條市の三市の連携協議会の予算で購入してございます。

以上です。

○議長（中西峰雄君）6番 清水君。

○6番（清水信弘君）抽せん方法というのは聞かなかったですかね。もしあれやったらお

答え願いたいと思うんですけども。

○議長（中西峰雄君）企画経営室長。

○企画経営室長（野上義己君）また、抽せん方法についてでございますけれども、三市の広域の実行委員会の作業部会のほうで、幹事会のほうで厳正に抽せんを、年内にはどうかと思っておりますが、1月の初旬頃に抽せん会を行う予定でございます。

以上です。

○議長（中西峰雄君）6番 清水君。

○6番（清水信弘君）今までも何回かやられてると思いますけども、その応募数と、今回はまだ集計されてないのかもわからんですけども、やっぱり多かったかどうか、ちょっとお伺いしたいと思います。

○議長（中西峰雄君）企画経営室長。

○企画経営室長（野上義己君）これまでのスタンプラリーの応募状況に関してでございますが、先ほど部長のほうからご答弁させていただいたように、平成18年からこのスタンプラリーがスタートしております。当初18年におきましては、スタンプラリーの期間が11月1日から12月末ということで、約2カ月間でした。その後、19年から21年までが約3カ月、10月から12月いっぱい。それと、今年度は、先ほど申しましたように、平城遷都1300年祭の関連で期間のスタートを9月1日と、先ほど橋本駅のほうへも「せんとくん」が来て、その啓発、PRもさせていただいたということで、9月から11月30日までと、今年はちょっと変則的な期間です。

そういった状況の中で応募者数としては、18年、2カ月の間で192人、それと19年度は264人、平成20年度におきましては261人、21年度、昨年306人、22年度が245人。この、ちょっと数字が落ちてるとというのが、平城遷都1300年祭の関係で1カ月早目にスタートしたということで、今年9月はまだまだ酷暑というか、

暑い日が続いておりまして、9月1日も非常に暑かったんですのやけども、そういったところからスタンプラリーの出足がちょっと不調であったかなというようなことを、検証する中ではそういうふうを考えております。

以上です。

○議長（中西峰雄君）6番 清水君。

○6番（清水信弘君）まあ、地域おこしにもなると思いますので言ってるんですけども、注目を集めるためには商品が豪華であることが一番早いと思うんですよ。ほんで、三市合わせてもそう予算ないとは思うんですけども、三市には当然大きな全国レベルの販売店もあると思いますので、そこに何らかの協力を願って、そこにもそういった応募用紙を置いてもらえれば一挙に増すのではないかと私は思うんですけども、そういったお考え、持たれてないのか、お伺いします。

○議長（中西峰雄君）企画経営室長。

○企画経営室長（野上義己君）こういったスタンプラリーを恒例化するというところで、今後も幅広く参加いただいて、三市の市民の交流はもちろん、遠方からでもご参加いただいて、市の活性につながっていくというような方向でももちろん考えていきたいというふうに思っております。

その中で、もっと大勢の人に参加してもらうためには、ある意味、スポンサーの協力をいただいての豪華賞品を目玉にしてというところから注目を集めることもできるというご意見かと思っております。非常にすばらしいご提案をいただいております。そういった中では、実行委員会のほうについては1年限りで終わりますけれども、三市の連携協議会の中で改めてこの案について、私も前向きに幹事会の中で提案をさせていただきたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（中西峰雄君）6番 清水君。

○6番（清水信弘君）ぜひそのようにお願いいたしたいと思っております。

それと、私、自分で回ってて思ったんですけども、そこのポイントに行くのに、ここでおりて、そこからバスで何分、この駅からあるの、今、とてもじゃないけど、1日で4箇所回るのしんどいと思うんですわ。そういう行き方すると、ほとんどが車で行くと思うんですよ。それでも6箇所はしんどい。ですから、車には今ほとんどカーナビがあると思いますので、そういった案内よりも。もちろん電話番号は書いてくれてはるんで、電話番号入れたら行くカーナビもありますけれども、住所を入れておいてもらったら。住所ないんですよ。全部住所がないので、入れておいてもらったら、1日4箇所ぐらいは可能であると思います。この点、簡単なことなんですけど、どうでしょう。お願いできますか。

○議長（中西峰雄君）企画経営室長。

○企画経営室長（野上義己君）議員お尋ねの、特に遠方から車でスタンプポイントを回られる方も非常に多いということで、確かにカーナビが普及している中では、そういった所在地を明記させてもらうことによりまして確実に目的地にたどり着けるというふうに思います。こういうパンフレットの中にスペースをできるだけ設ける形で所在も入れていきたいというふうに、これも三市の広域連携協議会の中へ前向きな考え方、意見としてご提案をさせていただきますので、よろしく申し上げます。

○議長（中西峰雄君）6番 清水君。

○6番（清水信弘君）最後に、市長にお答え願いたい。ちょっと無礼な質問になるかもわからんのですが、実は、五條の柿博物

館に行ってきました、和歌山と奈良の柿のことが出てました。おお、そうかと、私はちょっと知らなかった。市長はご存じだったらお答え願いたいと思うんですけども、全国の柿の1番、2番と、その1番と2番の差、わかりではないでしょうか。その他、柿のうんちくについてご披露願えるところがあったら、まだ随分余ってますので。わからなかったら結構でございますけど。

○議長（中西峰雄君）市長。

〔市長（木下善之君）登壇〕

○市長（木下善之君）清水議員の再質問にお答えしたいと思います。

質問の内容のことはよくわかるんですが、その前に、この三市の連携協議会、私も記憶あるんですが、昭和60年頃に立ち上げた記憶があるんです。そうして、その時は高度経済成長につれて大型予算を三市で組みまして、そうして、何回も会議をやるし、東京へもどンドン陳情しました。そして、金剛・葛城・岩湧山系のスカイラインつくろうなど、三市から2車線の道、皆入れて世に出そうやないかと。関西圏域で六甲らに負けてられてるか。私も議長させてもろうておるとき、そんなことで東京へ行って、大分騒いだこともあるんです。

しかし、時代の変遷で予算もだんだん小さくなってきて、今、そこまでは行きませんが、せめてもの三市の連携協議会という名のごとく、地道にやっぺいこうやないか、そういうように今のところは取り組んでおるわけであります。特に371号の大阪陳情なんかも、五條市長、河内長野市長、私、橋下知事とこへ行くのはそういう形でやっぺいおるといようなことでございます。

さて、ハウス、西吉野の、あそこ、ご覧になったんですか。ハウスって展示館。大きな丸いね。あれは西吉野のできでございます、

もう15年になると思うんでございますけども、立派な柿の展示されておるのが事実であります。

全国一番は、今、五條市なんですね、柿は。そして、2番がかつらぎ町ということでございまして、3番が紀の川市、4番が橋本市。これ、全国では紀の川、吉野川流域が主産地であるということ。

あの展示館も、私も、これは大きな産地やから、紀の川筋もつくったらどうなという見解を当時にいろいろ議論したことがあるんですが、今となつては優先的に私、考えておるのは、今度、371の昨日、答弁したところですが、駐車場とか、杉村公園の。あそこの郷土資料館が非常に狭隘で、もう40年近くたつてますよ。全国からバス連ねて高野参りのときに橋本市に寄ってみようかというような、今のところ、たくさん神社、仏閣ありますけども、まあ、近代的なそういうものを次には建てていくべきではないかなど。これはまだ先のことでありますけれども。

2,500点ほど、あそこに陳列しておりますが、まあ、ありゃ陳列やないですわな。収蔵庫みたいな格好になってしまっておるので、これ、近代的なものをああいう場所に、やがてはやっぺい郷土資料館というのか、博物館というか、そういう他府県の皆さんに寄つてもろうて見ていただけるようなものは絶対必要やと思うんです。柿のああいうのも大事ですけども、つけ加えて答弁させていただきます。

以上でございます。

○議長（中西峰雄君）6番 清水君。

○6番（清水信弘君）ありがとうございます。

市町村別で言っただけとは思いませんでしたので。そこにはそれは出てなくて、県別で出てました。ほたら、1番が何と和歌山県です。2番が奈良県で、和歌山県は何と

奈良県の2倍ありました。和歌山県も相当頑張っている。恐らく吉野川、紀の川筋でほとんどを占めていると思いますけれども、和歌山県は柿に関しては誇るべき県であったと認識いたしました。

以上、終わります。

○議長(中西峰雄君) これをもって、6番 清水君の一般質問は終わりました。